

国際共・共拠点 2021年度成果報告会を開催しました

東京大学医科学研究所 国際共同利用・共同研究拠点の2021年成果報告会を3月2日、3日、4日の3日間にわたり（2日目は千葉大学真菌医学研究センターとの合同成果報告）オンラインで開催しました。国際・国内共同研究のハブとして機能するという目的のもと設定された3つのコアとなる研究領域（領域1、領域2、領域3）からそれぞれ、国内共同研究16件、国際共同研究6件の研究成果が紹介され、国内外から各分野の研究者135名が参加しました。

成果報告会初日の3月2日は東京大学医科学研究所の山梨裕司所長による開会の辞で始まりました。ウイルス免疫療法開発など先端医療研究開発分野（領域1）から3件、ゲノム・がん・疾患システム分野（領域2）から5件の研究発表が行われ、各研究で得られた最新の知見が紹介されました。

【写真左】座長 藤堂先生（医科研）【写真右】山梨先生（医科研所長）



千葉大学真菌医学研究センターとの合同成果報告会となった第2日目は、米山光俊先生から開会のご挨拶をいただいた後、医薬基盤・健康・栄養研究所の飯島則文先生より末梢組織に構築される生体防御機構の重要性について特別講演をいただきました。講演後には活発な質疑応答が交わされ、予定された時間を延長するほど意欲的な議論が繰り広げられました。

【写真左】飯島先生（医薬基盤・健康・栄養研究所）【写真右】米山先生（真菌医学研究センター）



続いての合同成果報告会では、千葉大真菌医学研究センターから4件、医科研の感染症・免疫分野（領域3）から4件の共同研究成果発表があり、ヘルペスウィルスが認知症進行に与える影響についての研究発表など、最先端の研究から貴重な知見が多く紹介されました。

最終日の4日は国際共同研究について領域ごとに海外の登壇者6名から発表が行われ、ゲノム解析による新規発がんプロセスの解明など、国際的なチームワークによる先進的な研究内容が披露されました。質疑応答では専門領域外の研究者からも多くの質問が寄せられ、基礎研究に従事する研究者間で積極的な意見交換が行われました。

【写真左】Teh先生（シンガポール国立がんセンター）【写真右】座長 稲田先生（医科研）



福島県立医科大学、信州大学、京都大学、愛知県医療療育総合センター、長崎大学、香川大学、オーストラリア大学、コンケン大学、シンガポール国立がんセンター、中山大學といった国内外の大学・研究機関より登壇者をお招きして実施した2021年度成果報告会は、医科学分野における世界的な研究交流の場を提供すると同時に、拠点を介した国内外の連携が伺える機会となりました。